

広島県東部におけるノスリ *Buteo buteo* の繁殖確認

上野吉雄¹⁾*・石井秀雄²⁾・加藤淳司³⁾

¹⁾ 広島県立広島西特別支援学校・²⁾ 広島県立千代田高等学校・³⁾ 株) 荒谷建設コンサルタント

The Breeding Record of Common Buzzard, *Buteo buteo*, in the East part of Hiroshima Prefecture

Yoshio UENO, Hideo ISHII and Junji KATO

報告

ノスリ *Buteo buteo* はユーラシア大陸に広く分布し、農耕地や草原、開けた林などに生息する猛禽である(森岡ほか 1995)。国内では北海道、本州、四国、九州で繁殖し、冬季には全国で見られる(日本鳥学会 2012)。広島県内では、春、秋の渡りの時期や、越冬する個体が少数確認される程度であった(日本野鳥の会広島県支部 2002)。筆者らは 2011 年から 2013 年にかけてノスリの繁殖を確認したので報告する。

ノスリの繁殖を確認した場所は広島県北東部に位置し、標高は約 700m である。水田を中心とした農耕地が広がっており、周囲を落葉広葉樹林やスギ *Cryptomeria japonica* やヒノキ *Chamaecyparis obtusa* の植林地に囲まれている。本報告では、詳細な場所については本種の保護のために記載しない。

2011 年 4 月 3 日の 12:30 に標高約 700m のアカマツ林の上を 2 羽で連れだって飛翔していた。15:15 にアカマツ林の南側の標高約 1,200m の主峰上空を 2 羽で飛翔し、うち、1 羽が波状ディスプレイをした。16:00 から 17:00 にかけて主峰上空を 4 羽で飛翔し、うち、2 羽が突っかかり行動をした。

4 月 10 日の 13:25 から 13:45 にかけてアカマツ林の東側の山頂に 5 羽出現し、たがいに波状ディスプレイを繰り返し、最終的に 2 羽が残りアカマツ *Pinus densiflora* にとまった。14:00 から 14:05 にかけて東側山頂に 1 羽出て高く上昇し、消失した。

4 月 23 日の 13:40 から 13:55 にかけてアカマツ林の上空に 2 羽が出現し、1 羽は主峰上空に移動して波状ディスプレイし、もう 1 羽もこれに追従した。14:00 にアカマツ林上空に 2 羽出現し、うち 1 羽が波状ディスプレイをした。14:40 に主峰山頂に 3 羽が出現し、探餌飛翔をした。

4 月 30 日の 13:30 にアカマツ林の上空に 2 羽出現し、高く上昇した。

5 月 14 日の 14:40 から 14:50 にかけてアカマツ林の上空に 4 羽が出現し、うち 2 羽が互に波状ディスプレイをした。

6 月 26 日の 11:35 から 11:40 にかけてアカマツ林上空に 1 羽が出現し、波状ディスプレイをした。12:37 に再び 1 羽が出現し、波状ディスプレイをした。

7 月 9 日の 7:30 から 7:35 に主峰山麓北側の伐採地上空で 1 羽を確認した。

7 月 10 日の 7:10 に主峰山麓の伐採地上空でオス 1 羽を確認した。8:05 から 8:13 にかけてメスが伐採地東側のヒノキにとまった。17:30 に 3 羽が伐採地上空に出現した。

7 月 17 日の 9:00 から 9:25 にかけて 2 羽が伐採地東側の山頂を 2 羽が旋回飛翔し、山頂の広葉樹にとまった。9:45 から 9:50 にかけて主峰の東側の尾根上に 2 羽が出現し、高く旋回飛翔した。12:45 に尾根上に 1 羽現れ、波状ディスプレイをした。13:30 に伐採地から国道を隔てた西側の小ピークの上空をオスがさかんに鳴いて旋回飛翔後、西側の尾根上の広葉樹にとまり、13:35 に飛翔して消失した。13:50 にオスが森林上に出現し、旋回飛翔して主峰東側の尾根上に移動後消失した。

7月18日の7:45に主峰山麓北側の伐採地上空に1羽出現し、伐採地東側の尾根上に移動後、消失した。

7月23日の10:40に主峰山麓北側の伐採地上空に1羽が出現し、鳴いて西に移動後消失した。13:25に主峰山麓北側の伐採地上空に1羽が出現し、鳴いてすぐに消失した。15:45から16:10にかけて伐採地に2羽出現し、1羽は砂浴をし、もう1羽はそばの倒木にとまった。16:45に1羽が尾根上の枯れ木にとまり、枝移りをした後、17:30までとまっていた。

7月30日の10:15に伐採地から国道を隔てた西側の森林の上空に巣立ち直後の幼鳥が出現した。17:30に幼鳥が出現した林内で今シーズン使用した巣を確認した。巣はアカマツの地上約15mの位置の横枝の上に置かれていた(図版1-A, B)。

7月31日の9:10に主峰山麓北側の伐採地上空にメスが出現した。10:30に伐採地東側の尾根上の枯れ木にメスがとまり、10:40に伐採地の方向に移動し消失した。14:45に伐採地東側の尾根上の枯れ木に幼鳥がとまり、15:30に西に飛翔して消失した(図版1-D)。

2012年5月13日の11:30に1羽が主峰西側山麓から国道を隔てた西側の尾根上の広葉樹にとまった。12:00に1羽が西側の尾根の林内に飛び込んだ。12:10に1羽が西側の尾根上の上空に現れ、さかんに鳴いた。14:25に1羽が西側の尾根から現れ、主峰に移動して波状ディスプレイをした。14:35に1羽が現れ、主峰山麓北側の伐採地の樹木にとまった。15:30に伐採地から国道を隔てた西側の森林内で今シーズン使用している巣を確認した。この巣は昨年使用したと思われる巣と同一であった。

5月27日10:20に主峰上空に2羽出現し、うち1羽が波状ディスプレイをした。11:35に主峰上空に1羽現れ、ハチクマ *Pernis ptilorhynchus* を追いかけた。

2013年5月13日の9:10にアカマツ林上空に3羽現れ、旋回して北へ移動して消失した。6月30日の11:00にアカマツ林上空に1羽出現し、すぐに消失した。13:40にアカマツ林南側の尾根上のスギにとまった。13:50にハシブトガラス *Corvus macrorhynchos* に追われて消失した。

7月5日の15:00に主峰山麓西側の伐採地上空で1羽を確認した。16:15に伐採地から国道を隔てた東側の小ピーク上のスギにとまった。16:20にヒヨドリ *Hypsipetes amaurotis* に追われて北へ移動し消失した。

7月13日の15:00に主峰北側の水田を隔てた北側の尾根上に出現し、ハシブトガラスに追われて消失した。14:00に主峰北側の水田上空に出現し、東に移動して消失した。

7月14日の10:30に主峰の北側山麓の林内から鳴きながらメスが現れ、10:42に再び林内に消失した。12:37に主峰北側の水田上をメスが地上高20～23mの低い高度で鳴きながら飛翔した。その後、主峰北側斜面の水田を隔てた北側の尾根上にオスがクマタカ *Nisaetus nipalensis* を追って出現し、クマタカを攻撃したあと、メスに追従し、メスが消失した主峰の林内から70～80m過ぎた林内に消失した。13:05に主峰北側の水田の道路端の電柱に巣立ち直後の幼鳥がとまっていたが、民家のそばのアカマツの中に消失した。その後、幼鳥がアカマツの中から現れ10mくらい離れた広葉樹の横枝にとまった。次に幼鳥が広葉樹から飛び立ちハシブトガラスに追われて鳴きながら林内に消失した。13:26にオスがハタネズミ *Microtus montebelli* を足に掴んで鳴きながら飛翔し、その後、主峰北側斜面の水田を隔てた北側の尾根上のアカマツ枯れ木にとまった。その後、飛翔して別のアカマツ枯れ木にとまった。次に再びもとのアカマツ枯れ木にとまったが、ハタネズミは消失していた。13:50～14:10にかけてオスが水田の上空に現れ、波状ディスプレイを繰り返した。14:33～15:30にかけて幼鳥が主峰北側斜面の水田を隔てた北側の尾根上のアカマツ枯れ木にとまり、枝移りや翼を広げたり、枝の上でジャンプするなどの行動を繰り返し、時々鳴いていた。15:30に幼鳥が飛翔して水田近くのアカマツ枯れ木にとまった。15:40に幼鳥が飛翔して林床に消失した。15:43に幼鳥が林内から現れ、電線にとまった後、水田の畦に降り立ったが、ハシブトガラスに追われて水田のそばの広葉樹にとまった。15:45に幼鳥が再びハシブトガラスに追われ林内に消失した。15:55にメスが上空に現れ、旋回後、主峰北側斜面の水田を隔てた北側の尾根上のアカマツ枯れ木にとまった。16:05にメスが上空に出現し、旋回後、林内に消失した。16:15にメスが上空に現れ、旋回後東に消失した。16:50に幼鳥が主峰北側斜面の水田を隔てた北側の尾根上のアカマツ枯れ木にとまった。その後、16:55に幼鳥が鳴きながら飛翔して消失した。

7月21日の12:30に主峰北側斜面の水田のそばのアカマツ枯れ木にオスがとまっていた。その後、13:00に

飛翔し、上空を旋回上昇して主峰の尾根上に消失した。13:30にメスが現れ、主峰北側斜面の広葉樹にとまった。13:40にオスと7月14日に確認したのとは別の幼鳥が現れ(図版1-H)、幼鳥は主峰北側斜面の水田を隔てた北側の尾根に消失し、オスは上空を旋回した。

前述のように、県内ではこれまでノスリは春・秋の渡りの時期に見られるか、少数のものが冬鳥として越冬するのみであると考えられていたが、今回の筆者らの調査で県内でも少数のものが繁殖することが明らかになった。そこで、広島県レッドデータブックの見直しにおいて、本地域以外での県内における繁殖例の報告がなく、本地域における繁殖個体群も小さく、県内での繁殖個体群は飛び地的であり、貴重な繁殖個体群であるので要注意種に選定された(石井2012)。

本地域では、巣立ち直後の幼鳥が7月下旬に見られた。本州の他の地域での巣立ちは6月下旬から7月中旬であるので(小島1996)、やや遅い傾向がある。これは、本地域が積雪地域であるため、雪どけを待って産卵するためであると考えられる。本地域におけるノスリの繁殖個体群はきわめて小さく消滅する可能性があるため、今後とも注意深くモニタリングしていく必要がある。

調査に協力していただいた広島県環境保健協会の井原庸氏と松本明子氏、野生生物調査員の佐藤淳氏に感謝の意を表す。

引用文献

- 石井秀雄(2012)ノスリ. 広島県の絶滅のおそれのある野生生物(第3版)ーレッドデータブックひろしま2011ー:
80. レッドデータブックひろしま検討委員会
- 小島幸彦(1996)ノスリ. 日本動物大百科 鳥類II:167-169. 平凡社
- 森岡照明・叶内拓哉・川田隆・山形則男(1995)ノスリ. 図鑑日本のワシタカ類:160-171. 文一総合出版
- 日本鳥学会(2012)日本鳥類目録改訂第7版. 日本鳥学会編集委員会
- 日本野鳥の会広島県支部(2002)ひろしま野鳥図鑑 増補改訂版. 中国新聞社



A: 営巢林	2011年7月30日
B: 巢	2011年7月30日
C: オス成鳥	2011年7月21日
D: 幼鳥	2011年7月31日
E: 餌を運ぶオス成鳥	2013年7月15日
F: 幼鳥	2013年7月15日
G: オス成鳥	2013年7月15日
H: 幼鳥	2013年7月21日